

常盤ときめき隊へのエール

谷口吉光（秋田県立大学）

ゴールデンウィーク最中の4月30日、NPO法人常盤ときめき隊の総会に行ってきました。会場は槐・四日市集会所。常盤地区に住む会員に加えて、上町など町場からも女性会員が大勢集まり、いつもながらの華やかで和やかな雰囲気です。

総会での熱い議論の後は懇親会。採れたてのアスパラガスをホットプレートで焼いて振る舞ってくれる横では、女性たち手作りのだまこ鍋、料理、漬物、デザートなどがところ狭しと並びます。みんな思い思いの飲み物を手に、楽しい話し合いに時の経つのを忘れます。

私は家族と一緒に3年ほど前から会員になりました。「なぜ秋田市の人が能代市のNPOの会員に？」と思う人もいるかもしれません。確かにときめき隊は常盤地区に拠点を置くローカルな団体ですが、私にはものすごい魅力とポテンシャル（潜在的可能性）を持っているように思えます。その魅力に惚れ込んで、おつきあいさせてもらっているのです。

ときめき隊の最大の魅力は、常盤地区の農家と町場の消費者が協力して事業（ビジネス）を行っている点です。有名なのは上町にある「夢工房 咲く咲く」で毎週日曜に開催している朝市でしょう。同じ市町村の中で、農家と消費者がこんなに活発に交流している例は秋田県でも他にない（全国的にも少ない）と思います。

農家と消費者というと、どうしても単なる物の売り買い関係になりがちですが、ときめき隊の中心メンバーの間には、対等でお互いを支え合おうという「同志」のような関係があるように見えます。農家は消費者が買ってくれなければ生活できませんが、消費者だって農家がいなければ食べものを手に入れることができません。その意味で、農家はもっと大事にされるべきだし、農家と消費者はもっと仲良く助け合わなければならないと思います。私がつきめき隊を好きなのは、そんな農家と消費者の理想的な姿が見えるように思うからです。

もうひとつの魅力は、地元の中だけに閉じこもっていない点です。ときめき隊には何人もキーパーソンが参加していますが、それぞれ個人的なネットワークを持っていて、それを通じて地域の情報を外に発信し、外の人とつながり、外の活力を地域に呼び込んでいます。最大の発信地は、いうまでもなく「夢工房 咲く咲く」と「平山はかり店」でしょう。

私がトランジションの研究する場所として能代市を選んだのも、ときめき隊があったことが大きな理由でした。ときめき隊の持っている可能性を能代全体に広げたら、「持続可能な能代」の姿が見えてくるのではないかと。3年目に入った研究ですが、その姿を少しずつ形にしていきたいと思っています。

（北羽新報「トランジションの風」2018年5月12日掲載分に加筆・修正した）